

伊豆の豊かな海を守る海藻移植研究

(予算区分 研究費 研究期間 2023～2025 年度)
担当：水産・海洋技術研究所 伊豆分場 角田充弘

【研究の背景とねらい】

- ・伊豆半島沿岸では黒潮大蛇行が8年間継続し、磯焼けが深刻化しています。カジメ群落の急速な衰退により天然のアワビが餌不足に陥り「痩せアワビ」が問題になっています。
- ・本研究では、海藻着生状況調査により磯焼け状況を把握するとともに、アワビの餌として有用かつ現環境下でも生育可能な海藻の移植技術を開発します。
- ・海藻移植によりアワビの餌場となる藻場を造成することで、痩せアワビの解決を目指します。

【これまでに得られた成果】

- ・伊豆半島沿岸12地区で、潜水又は聞き取りで海藻の着生状況を調査したところ、全地区で磯焼けが継続しており藻場の衰退が見られました。
- ・アントクメの高温耐性を確認しました。また、アワビ稚貝の海藻給餌試験から、アントクメを与えた個体の成長が最も良好で(図1)、アントクメがアワビ稚貝の餌料として有効であることを明らかにしました。これらの結果からアントクメを移植対象海藻に決定しました。
- ・稲取漁港から採取した母藻をもとにアントクメの幼体を人工的に育成することに成功しました。
- ・アントクメの移植試験場所について、河川からの栄養塩の供給が想定される湾奥部であり、潜水調査により海藻の繁茂状況が良好であった河津町下河津漁港を選定しました。
- ・人工採苗試験ではアントクメの遊走子を室内で培養し、幼孢子体の前段階である芽胞体まで育成することができました。また、天然採苗試験では11月に稲取港内に海藻付着基質を設置したことで、1月に付着基質に幼体の着生が見られました。
- ・アントクメの成熟期(8～11月)に下河津漁港内に母藻を移植したところ、発芽期(1月)に同地点において幼体の着生が確認されました(図2)。

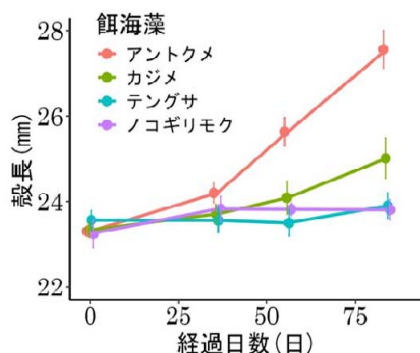


図1 餌海藻とクロアワビ稚貝の生長



図2 着生したアントクメ幼体

【期待される効果】

- ・今後、アントクメの移植技術をもとにした核藻場造成を行います。核藻場周辺の藻場回復とアワビの稚貝の放流場所として活用されることが期待されます。

【今後の計画】

- ・藻食性魚類を用いた海藻摂食試験を行い、移植海藻の食害防除方法を検討します。
- ・移植したアントクメ母藻の保護方法を検討するとともに漁港外の海域にも移植を展開し、アントクメ藻場造成技術の確立を試みます。

(試験研究課題年次別解説集様式第2号：継続課題用)

(作成 2025 年 4 月)